

「絶景。歴史探訪とパワースポットの旅 対馬・壱岐3日間(大人の修学旅行)」  
～壱岐編(7月30日)～

No.37 鴛海拓也

(なんかしんしゃったですか?)

前日の夕方5時半にフェリーで「郷ノ浦港(壱岐)」に到着後すぐにホテルに直行だったので、今朝のウォーキングからスタート。近くに展望台があるとの事で地図片手に散策。なかなか辿り着けずに地元の方に聞くとまだ遠いとの事。諦めてホテルに戻っていると、道の反対側のおばあさんが手招きをする。「えっ、私を呼んでいる?」道を渡ってみると、「なんかしんしゃったですか?」「えっ?」どうやら、トラブっている観光客に見えたらしい……?。

(猿岩)

壱岐に行ったら「猿岩」と定番になっている観光場所。岩が猿に似ているだけと思っていると今まで見たものもクオリティが高く、高さは45mもある。圧倒される。



(黒崎砲台跡)

「猿岩」のそばにある旧陸軍施設。40cmカノン砲が2門あったそうだ。写真(左)の弾丸で重量1000kg、射程距離35km。一度も実践で使用される事はなかった。この弾丸の大きさも凄いが、写真(右)の「戦艦大和」の主砲弾丸の大きさにも驚く。こんな弾丸を発射する砲台が戦艦に乗ってあったとは!



(左京鼻)

約1km続く断崖絶壁の海岸。見晴らしも良く、海中から飛び出た柱(観音柱かんのんはしら)も絶景である。



左京鼻



観音柱

(はらほげ地蔵)

「海女の里」として知られる八幡浦の海中に祀られている満潮になると胸まで海に浸かる「お地蔵さん」。地元では遭難した海女さんや鯨の供養のために祀られていると伝わっている。私達の行った時刻は「干潮」であり、少し残念な画像となって「期待外れ」であった。



(一支国博物館)

弥生時代の「壹岐島」は、中国の「魏志倭人伝(ぎしわじんでん)」に「一支国(いきこく)」として登場する。この博物館では、「登呂遺跡(静岡県)」「吉野ヶ里遺跡(佐賀県)」に並ぶ「原の辻(はらのつじ)遺跡(壹岐)」の出土品や映像などが見られる。館内は子供にも分かり易く、また精密に出来ているのでお勧めである。

(原の辻遺跡)

弥生時代から古墳時代初期にかけての大規模な多重環濠集落(丘陵の周りを多重の溝で

囲んだ集落)跡である。高床式の穀倉や物見やぐらなども見られるが、私が驚いたのは「竪穴式(たてあなし)住居」。普通、地面から80cmほど掘り下げられているが、ここは150cmほど掘り下げている。深い方が冬は暖かく、夏は涼しいと言われている。ここの遺跡は丘陵にある為に「水はけ」が良いのでこの深さで作られたと言われる。



竪穴式住居と物見やぐら

(おまけ=グルメ編)

対馬で印象に残ったのは「あなご会席」だった。こちらでも行きつけの魚屋で時々、「あなごの刺身」を買って食べる機会がある。噛むほどに甘みと旨味が出て美味しい。会席では、「あなごのフライ」も食べる事が出来て美味しかった。

壱岐では「うに飯」、「壱岐牛の陶板焼き」、「あわびの踊り焼き」を食べる事が出来た。どれも本当に美味かった。対馬では韓国漁船のあわびの密漁により、「あなご料理」を名物にとシフトしたらしい。境界線の見えない海での漁を糧にしている漁師には酷な話である。

(大人の修学旅行)

例えば、「壱岐」に行ったと言ったら「猿岩と、後何があるの?」と聞かれる。「他に観光名所は何があるの?」との内容だが、見るだけが観光とは違うと感じている。観光名所を見るだけなら、視覚的な情報だけしか捉えていなかった自分に反省している。「石垣島」にレースやスキューバ等で何度か訪れているが、ツアーに参加して見るとバスガイドや添乗員から色々な情報を得て、知らなかった事ばかり。今ではその情報をメモって、帰宅後に確認の意味でネットや観光ガイドなどで調べ直している。その意味合いも含めて「大人の修学旅行」である。